

男声合唱団



創立20⁺²周年記念
第13回コンサート

いのちの春よ
生きる喜びを
歌おう！

演奏曲目

日々草
春のメドレー
白樺
母なるヴォルガを下りて
U Boj !
朝露
歓びのナーダム
昴はうたう
地雷ではなく花をください
方正はいくさを物語る
独唱 千秋 昌弘
方正の青い空
ゆらゆら春
死んだ男の残したものは
いのちの歌

指揮 本並美德・伊藤 知

ピアノ 森 二三・門 万沙子

ゲスト スーホの白い馬
モンゴル楽団

プログラムは都合により変更することがあります。

2022年 4月 23日 (土)

豊中市立文化芸術センター 大ホール

開場: 13時30分 / 開演: 14時(終演予定 16時)

入場料: 1,980円 (全席自由席)

高校生以下及び障がい者と付添: 1,500円

主催: 男声合唱団 昴 / HP URL 《<http://subaru-osaka.info/>》

お問い合わせ: 立川孝信 (090-6058-5652) / 岡邑洋介 (090-8168-9347)



苦しみを乗り越え ともに歌いましょう!!

「昂」は創立以来、命の尊さや平和を願う歌をずっと歌い続けてきました。しかし世界中の人々のたくさんの命と平和な暮らしを奪った COVID-19 によるパンデミックによって、記念すべき20周年コンサートの中止を余儀なくされ、何の活動もできない長い長い冬を耐え忍んできました。

日本では、いまようやく本当の春の兆しが見えてきました。悲しみの傷跡は深いけれど、いつまでも沈んでいては明日はありません。さあ 立ち上がりましょう！みんなで手を取り合って、以前のように思いつきり歌える日々を取り戻しましょう。私たちはうたごえの力で人々に生きる力を届けたい、一人でも多くの人とともに、平和のうたごえを大きくひびかせたいと願っています。

今回のコンサートが、希望へ向かって歩き出す皆さんの方強い出発点となることを願って、力一杯歌います。たくさんの皆様のご来場を心よりお待ちしています。

男声合唱団 昂 団員一同



演奏曲について

春のよろこび

子供の頃が懐かしい童謡などの「春のメドレー」で、厳しい冬を耐え抜き、待ちかねた春を迎える心のときめきを、歌います。

世界の歌

韓国語で「朝露」、アカペラで歌うクロアチア語の「U Boj!」(ウ・ボイ)や、ロシアの「白樺」・「母なるヴォルガを下りて」、モンゴルの「歓びのナーダム」、厳しい時代を、たくましく生き抜いてきた世界の人々の熱い思いをお届けします。

昂の創作曲

団長の千秋昌弘が、中国の戦跡を訪ねて知った悲惨な事実をもとにした「方正はいくさを物語る」、「方正の青い空」、指揮の本並美德が、地雷撲滅運動の中で作った「地雷ではなく 花をください」、共に歌う仲間を広げたい思いを込めた「昂はうたう」、昂の中から生まれてきた曲を歌います。

いのちの歌

生きる喜びを歌う「日々草」、真実を貫く孤独なたたかいでの希望を歌った「ゆらゆら春」、永遠の平和を願う心にしめる名曲「死んだ男の残したものは」、そして、最後に「いのちの歌」で会場全体をあたたかく包み込んでコンサートを締めくくります。

特別ゲスト

スーホの白い馬モンゴル楽団

「スーホの白い馬」という絵本の題名から名前を冠したモンゴル楽団は2014年に、大阪で設立されました。モンゴルの楽器(馬頭琴、トブショル、ホーミー、口弦)を使って、日本の各学校や音楽会で演奏し好評を博しています。モンゴル音楽を発展させ他民族の音楽と融合させながら、音楽での国際交流を実現しています。

馴染みのある楽曲を通して、モンゴルの音楽と文化・情緒をお楽しみください。



昂で新しい人生を見つめよう! 団員大募集中!!

何か打ち込めるものがほしい。
そんなあなたの願いを実現します。
あこがれの男声合唱に挑戦しませんか？

レッスン: 第1, 3, 5金曜日午後6時、第3、5日曜日午後2時
会 場: ねむかホール(大阪メトロ谷町6丁目駅 徒歩3分)
詳細は、チラシ表に記載の、問合せ先まで。

第13回コンサート後から新たに、男声合唱団 昂 を応援し、初心者も参加しやすい2つの取り組みを始めます。

日曜団員

月一回の日曜参加で、昂団員としての合唱人生が始まります。(毎月第三日曜日午後)

昂友の会

昂を支える活動で、女性も昂の舞台と一緒に歌えます。

(詳しくは、別途募集チラシをごらんください。)

男声合唱団 **昴** 創立20⁺²周年記念

第13回コンサート

いのちの春よ
生きる喜びを
歌おう！



2022年4月23日(土) 開演 14:00 終演予定 16:00
豊中市立文化芸術センター 大ホール

プログラム

指揮：本並 美徳／伊藤 知
ピアノ：森 二三／門 万沙子
司会：中村 聖保

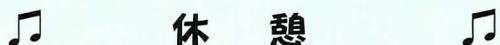
第一部 生きるということ <春・希望>

日 夕 草(日本)	星野富弘/詩 加羽澤美濃/曲 本並美德/合唱編曲
春のメドレー(日本)	たかしまあきひこ/編 女声2部合唱「童謡・唱歌 四季メドレー」より
白 樺(ロシア)	V.ラザレフ/詞 関 鑑子/訳詞 M.フラトキン/曲
母なるヴォルガを下りて(ロシア)	合唱団白樺/訳詞 スベシェニコフ/編曲 本並美德/合唱編曲
U Boj! <ウ・ボイ> (クロアチア)	F.マルコヴィッチ/詞 I.ザイツ/曲
朝 露(韓国)	金 敏基/詞・曲 小林康浩/訳詞・編曲

第二部 モンゴルの大地から <風>

ゲスト：スホの白い馬モンゴル楽団

黒幕日 (ヒムリー)	イラト/曲
牧歌	モンゴル民謡
ホンガ口(白鳥／鴻雁)	モンゴル民謡
モンゴルの故郷	モンゴル民謡
万馬の轟(万馬奔騰)	チ・ボラグ/曲
<男声合唱団昴との共演>	
歓びのナーダム(モンゴル)	巴音吉日嘎拉/詞 色恩克巴雅尔/曲 社兆植/編曲 本並美德/日本語詞



第三部 いのちを歌う <愛>

昴はうたう	千秋昌弘/詞 森 二三/曲
地雷ではなく花をください	門倉さとし/詞 本並美德/曲 土肥永津子・本並美德/編曲
組曲『満蒙の地「方正(ほうまさ)」の歌』より	
方正はいくさを物語る <独唱 千秋昌弘>	千秋昌弘/詞 森 二三/曲
方正の青い空～国は違えど同じ人間～	千秋昌弘/詞・曲 榊原あきひろ/補曲 森 二三/補曲・編曲
ゆらゆら春	桜井昌司/詞・曲 山下和子/編曲
死んだ男の残したものは	谷川俊太郎/詩 武満 徹/曲 赤堀文雄/編曲
いのちの歌	Miyabi/詞 村松崇継/曲 本並美德/編曲

舞台監督：溝口 隆徳

ごあいさつ

団長 千秋昌弘

男声合唱団昂は、2000年に「うたごえは平和の力」を合言葉として、大阪中にうたごえを響かせようと出発しました。最初は50歳代のパワー溢れる響きでしたが、今では人生経験を醸し出す豊かなハーモニーも備えた合唱団となり、日本のうたごえ祭典合唱発表会での過去の輝かしい実績を維持・発展できるよう、初心者や高齢者も楽しみながら日々活動しています。

私たちは創立20+2周年を機に、もっと仲間を広げて、大阪のうたごえを切り開く先頭に立つ合唱団の実現をめざしております。うたごえ喫茶の充実、日曜団員の募集や、女性も参加できる「昂友の会」など、新たな企画も進めており、うたごえの力で平和な世界を目指す仲間として、ぜひ一緒に歩もうではありませんか。皆さんのご入団を心からお待ちしております。

今日は「いのちの春よ 生きる喜びを歌おう！」をテーマに、私たちの平和への思いが皆様に届き、みんなの願いがまとまって力となるようなコンサートをめざし、心を込めて歌いますので、お楽しみください。

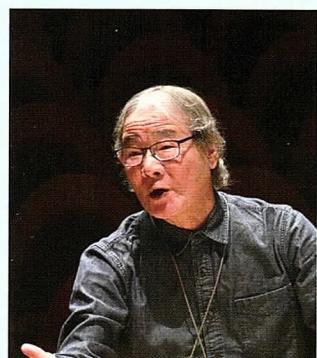
ゲスト

スホの白い馬モンゴル楽団



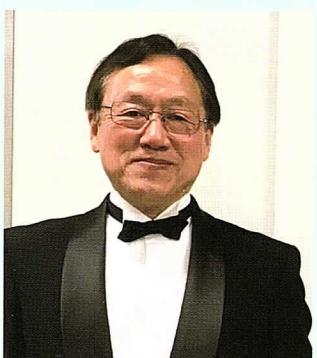
モンゴルの各連合区の出身のメンバーが、モンゴルの民族楽器（馬頭琴、トブショル、ホーミー、口弦、モンゴル打楽器など）を使い、日本の各学校や音楽会場で活動し、好評を博しています。モンゴル音楽を発展させ、音楽とモンゴル文化を結合し、モンゴルの強い精神世界の起源を探求しています。モンゴル楽器を他の民族の音楽と融合し、音楽で文化交流を実現させています。馴染みのある楽曲の中でモンゴルの音楽と文化を感じてもらうと共にモンゴルの情緒をお伝えしたいと思います。

指揮者 本並美德 (もとなみ よしのり)



1941年生まれ。日本専売公社に勤務しながら、1961年より関西合唱団に参加。大阪音楽大学サテライト・マスターコース指揮者コース修了。大阪ハイインリッピ・シュツツ合唱団に所属、2回のドイツ公演にも参加。現在、男声合唱団昂、関西紫金草合唱団、奈良紫金草合唱団、ロシア民謡合唱団コスマス、とよの合唱団の指揮者。ピアノ調律技術者。

指揮者 伊藤 知 (いとう さとる)



1971年の歌劇「沖縄」岡山公演参加をきっかけにうたごえ運動を知る。1974年から数年間関西合唱団に所属し、豊中市地域のうたごえサークル活動へも断続的に参加。昂ファーストコンサート公演準備時期に昂へ入団。61歳になつてから声楽を習い出し10年、音域&声量も増し、歌う歎びに目覚める。現在、昂を含め5つの合唱団に所属。昂の副指揮者を務める。

ピアニスト 森 二三 (もり ふみ)



大阪音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。大阪市役所グリーンコーラス、東大阪センター合唱団ソカロのピアノを担当した他、子どもたちの合唱、PTAコーラス、声楽、バイオリンの伴奏を経験。現在は、子どもたちにピアノを指導するかたわら、おおさかパルコープサークルレインボーコーラス、ロシア民謡合唱団「コスマス」、関西紫金草合唱団、奈良紫金草合唱団、男声合唱団昂などのピアニストを務めている。

ピアニスト 門 万沙子 (かど まさこ)



大阪音楽大学音楽学部ピアノ専攻卒業。リサイタルやオーケストラとの共演の他、ジョイントリサイタル等に出演。声楽や合唱のピアニストとして活躍する一方で、ピアノデュオアンサンブルの演奏活動も行っている。作曲を早野柳三郎、楽曲分析を矢代秋雄、ピアノを坂弘子、沖本ひとみ、ピアノデュオをE.ザイラー諸氏に師事。

現在、関西合唱団のピアニストをつとめている

「昴」 22年間の歩み

- 2000年春、20名で「男声合唱団昴」結成
- コンサート13回（参加者合計約11,500人）
- 昴主催の公演 8回 そのほか共催公演
　　中国/南京友好コンサート
　　東日本大震災復興支援コンサート
　　〈大船渡・陸前高田〉等
- 他合唱団等主催のコンサート・音楽会出演12回
- 地域や労組・民主団体の催し出演等 54回
- 日本のうたごえ祭典合唱発表会出場 18回
- 昴ニュース発行 通算まもなく 800号

「昴」の最近の活動

- 日本のうたごえ合唱発表会出場、総会
　　声楽教室（個人レッスン）月1回、誕生日懇親会、
　　団内コンサート（声楽発表会）、声楽家による指導、
- 2020～22 新型コロナウイルスパンデミックにより
　　断続的に活動中断、少人数分割レッスン実施
- 2021/12 日本のうたごえ広島祭典合唱発表会 出場
　　「日々草」「U Boj!」
- 2021/12 中日友好音楽祭 ビデオ出演（旭区民センター）
- 2022/4 創立20+2周年記念第13回コンサート
　　（豊中文化芸術センター）
- 2022/4 「昴友の会」「日曜団員」発足

昴の仲間たち

トップテナー

小西 隆 鈴木淳一 立川孝信 千秋昌弘
山本宏司 山本直一 吉岡 敬 吉田雄三
若園達雄

セカンドテナー

伊藤 知 大畠成美 更家幸雄 佃 祐司
寺脇伸育 中谷清一 米川 真

バリトン

岩崎和男 大橋一雄 奥村克美 清水恭太郎
仲谷増廣 西村 真 向井勝弘 山本 力
吉川勝彦

バス

岡邑洋介 川妻成美 木越敏郎 丹下 務
土井一正 藤後博巳 埼（はが）武 東尾博司
光本 章 三村千晴

（現在、休団中の団員も含む）

団員募集

男性ならどなたでも参加できます

- 練習は 毎月の第1・3・5金曜日 18:00～20:30
　　毎月の 第3・5日曜日 14:00～17:00
- 団費は、 每月 3,000 円
- 予定などは昴のホームページで、いつでも閲覧、確認
　　できます。HP URL (<http://subaru-osaka.info/>)
- レッスンは、下記 ねむかホールで行います。

あなたも うたごえの和の中へ

仕事で日曜日にしか、レッスンに参加できない
あなた！

日曜団員募集！！

今回、日曜団員を募集し、月一回第三日曜日の午後、
レッスンに参加、およそ一年のレッスンで、次回コン
サートに、舞台にお立ちいただき、一緒に歌いましょ
う！！

詳細は募集案内をご覧下さい。

昴 友の会大募集

女性の方、大歓迎です。

男声合唱団「昴」友の会は、この合唱団が更に大きく発展するよう、支援し
て行くことを目的とし、団との交流を図りながら、会員同士の親睦や友情を深
める活動を行います。

男声合唱団「昴」友の会に入って、共にステージに立ちましょう。

うたごえ喫茶は「友の会」の行事として適宜行なっていきます。
別紙、申込書にて御入会下さい。



活動の拠点

ねむかホール



男声合唱団 第13回コンサート 曙 曲目解説と歌詞

第一部 生きるということ <希望>

日々草

星野 富弘 詩

障害にめげず、自分の思いを詩として発表、それを読んで感動したピアニストが作曲したのがこの作品である。

他愛もないことで喜んだり人を傷つけたり、平凡ではあるが一語では尽せない私たちの日常。変哲もない日々の一喜一憂もまた、生きる意欲を燃え起させてくれるものかもしれない。

2005年以降、歌ってきた団の愛唱曲

今日も一つ 悲しいことがあった
今日もまた一つ うれしいことがあった
笑ったり泣いたり 望んだり諦めたり
憎んだり 愛したり

今日も一つ 悲しいことがあった
今日もまた一つ うれしいことがあった
笑ったり泣いたり 望んだり諦めたり
憎んだり 愛したり

そして
これらの一つ一つを 包んでくれた
たくさんの 平凡なことがあった

笑ったり泣いたり 望んだり諦めたり
憎んだり 愛したり

春のメドレー たかしま あきひこ 編
ピアノ前奏 ヴィヴァルディ四季より 春

春がやって来た。
小鳥は楽しい歌で、春を歓迎する。
泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。
黒雲と稻妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。
嵐がやむと、小鳥はまた歌い始める。
(ソネットより)

どこかで春が

百田 宗治 詞

1923年発表された歌曲。厳しい冬も峠を越え、あちこちで生まれ始める春の息吹を感じられる早春の歌。今、学校では東風(こち)をそよ風と歌っている

どこかで春が 生まれてる
どこかで水が 流れだす
どこかで雲雀(ひばり)が 嶴いている
どこかで芽の出る 音がする
山の三月 東風吹いて
どこかで春が生まれてる

どじょっこ ふなっこ 東北地方民謡

池に住むドジョウやフナから見た春夏秋冬の様子を歌った歌。秋田に伝わる民謡から、岡本敏明が昭和11年に混声合唱として作曲した。

春になれば 氷(すが)こも融けて
どじょっこだの ふなっこだの
夜が明けたと 思うべな

春の小川

唱歌

1912年に発表された文部省唱歌。
歌詞の改変はあったが、現代まで100年以上、世代を超えて歌い継がれている。

春の小川は さらさら行くよ
岸のスミレや レンゲの花に
姿優しく 色美しく
咲けよ咲けよと ささやきながら

ピアノ間奏 花祭り アルゼンチン民謡

ウマウアカの谷にカーニバルが来るよ、チヨリータさん！という歌詞の、アンデスのフルクローレ。スペイン語で「春の祭り」とも言われる。

花の街

江間 章子 詞

1947年ラジオ番組から全国に広まった。戦争で荒廃した東京が花咲く町になってほしいと、江間章子が作詞した。

「く泣いていたよ 町の角では、戦争で苦しめ悲しみを味わった人々の姿を現したもの」と語っている。

七色の谷を越えて
流れて行く 風のリボン
輪になって 輪になって
駆けていったよ
春よ春よと 駆けていったよ

春の唄

喜志 邦三 詞

昭和12年国民歌謡の一つとして発表され、明るく軽快なメロディが好まれ広く歌われた。戦後も春になるとラジオやテレビでもよく放送された。

ラララ 赤い花束 車に積んで
春が来た来た 丘から町へ
スミレ買いましょ あの花売りの
可愛い瞳に 春の夢

花のまわりで

江間 章子 詞

1955年NHK学校音楽コンクール小学校の部の課題曲。歌詞は花から鳥、風、雲へとまわり、ロンド、世界の子ども、と広がり、世界平和の願いへとつながっている。

花のまわりで 鳥が回る
鳥のまわりで 風が回る
回れ回れ まわれ
コマのように 歌いながら
地球のように 回ろうよ

回れ回れ まわれ
虹のように 丸くなつて
地球のように 回ろうよ

ピアノ後奏 ヴィヴァルディ四季より 春

白 樋

V.ラザレフ 詞

関 鑑子 訳詞

1959年製作の旧ソ連映画「平和の最初の日」の挿入歌。映画は、侵攻したドイツで終戦を迎えたソ連軍兵士たちと、米軍やドイツ市民との交流や、死んだ兵士への思いが描かれており、ふだんの生活では外国へ出ることのなかった普通のロシア人たちが、戦争のために異国で味わうことになった望郷の念と、戦争を終えた感慨が、静かに歌われている。

乙女の髪に触れ そのまなざし追い
夜もすがらざわめく 葉擦(はず)れの歌聞く
白樺 白樺 何をわれに告げる

白樺の歌は 彼の春の歌か
忘れ得ぬ戦いの 厳し思い出の歌か
白樺 白樺 何をわれに告げる

鉛の吹雪に 地上は焼け崩れ
若者は武器取り 戦いに行くか
白樺 白樺 何をわれに告げる

モスクワ郊外の白樺 夜もすがら目覚め
パリのマロニエ 眠らず 葉擦れの歌聞く
白樺 白樺 何をわれに告げる

母なるヴォルガを 下りて

合唱団白樺 訳詞

母なるという形容が必ず付くヴォルガ河は、ロシア人の最も愛する大河で、昭和10年代から日本に広まっているロシア民謡。この歌詞は、ドン・コサックの首領ステパン(ステンカ)・ラージンを主人公にした長い詩の中の一部から作られたもので、一種のしりとり歌となっている。

母なる河 ヴォルガ
豊かな流れに 嵐は猛(たけ)りて
荒波逆巻く 波間に逆巻く
逆巻く波間に 小舟ただ一つ
白き帆影見ゆ

U Boj ! (ウ・ボイ)

F.マルコヴィッチ 詞

トルコの大軍に包囲されたクロアチアのシゲット城の城兵が決死隊を編成し、城主を先頭に敵軍へ切り込んでいく情景を「戦いへ、戦いへ！剣を抜け兄弟よ…祖国のため戦いへ！」と歌ったもので、1866年に国民的作曲家ザイツにより発表された。

日本で歌われるようになつたいきさつ

1919年、シベリアで解放された845名のチェコ将兵を乗せたヘフロン号が、台風により下関沖で座礁し、将兵たちは船の修理のため、2ヶ月間神戸で待機した。そのとき通訳を担当した英語が達者な関西学院生の塩路（グリークラブ所属）が、チェコ軍のオーケストラや合唱隊の存在を知り、学院に招いて演奏会を開いたり宿舎で歌うなど、交流を深めた。その合唱隊から聞いた曲で、特に印象が深かったのが「ウ・ボイ」であった。

船の修理を終え帰国する彼らに、関西学院グリークラブは「ウ・ボイ」を熱唱。異国の学生たちが歌う「ウ・ボイ」に、チェコ将兵たちの目には涙が光っていた。

以来関西学院グリークラブの秘曲として歌われ、いまでは全国の男声合唱団に愛唱されている。
(原語歌詞省略)

朝 露

金 俊基 詞

小林康浩 訳詞

1971年に韓国で作られ、当時の朴正熙大統領の軍事独裁政権打倒に命をかける決意を表した歌と言われ、1975年には「禁止歌」となり、歌ったら有罪とされた。1980年の光州事件で学生達に広く歌われ、韓国民主化運動を力強く励ました。

夜が明けた 草の葉には
真珠より美しい 朝露がある
そのしづくに 宿る痛み
丘の墓地に行く 涙こらえて
太陽は 墓地の上に浮かび
赤く照らされる 苦しみのあと
私は行く この荒れ野を
悲しみ乗り越え 私は行く

(韓国語歌詞省略)

第二部 モンゴルの大地から <風>

歓びのナーダム

巴音吉日嘎拉 作詞
本並美徳 日本語詞

モンゴル各地で行われる国民的お祭りのナーダム。最大のものは7月に首都ウランバートルで3日間開催され、相撲、競馬、弓射等が行われる。モンゴル民族の一体感を共有するお祭りである。

ナーダムだ ナーダムだ
モンゴルの夏は
ナーダムに 燃えるよ ホッホー
男も女も 互いに会える
ナーダムの祭りだよ
ホッホー ホッホホー
胸は躍るよー ナーダム

広い草原は 山あり谷あり
荒馬の背に若者 空駆け川飛び越え
勝了(ションラ) 勝了 漂亮(ピヤオリヤン)漂亮
勝了 勝了 漂亮 漂亮
ハイハイハイ ハイハイハイ・
ナーダムだ ナーダムだ
モンゴルの夏は
ナーダムに 燃えるよ ホッホー
男も女も 恋する季節は
ナーダムの祭りだよ
ホッホー ホッホホー
胸は躍るよー ナーダム

広い草原は 溢れる人波
真中に向き合う 二人の若者
ハックヨイ ハックヨイ 漂亮漂亮
のこった のこった 漂亮漂亮
ハイハイハイ ハイハイハイ・

豊かな故郷 全ての者達の
しあわせ續けと ナーダムの祭りを

歓び 称えよ 歓び 歌えよ
歌おう 歌おう アー

第三部 昂はうたう

千秋 昌弘 詞

いのちを歌う

＜愛＞

昂は平和な明日を願って歌い続けて22年。その確かな歩みに確信を持ち、歌うよろこびをさらに広げ、もっと多くの仲間とともに・・・この願いを、昂の団長千秋昌弘が創作曲としてまとめました。

さあ皆さん、ともに歌いましょう！

昂は歌う どんな時にも
友の別れにも 新たな出会いにも
昂は 心一つに歌う
生きていることをまっすぐ見つめ
たたかう仲間と 歌い交わし
昂は 心一つに歌う

その歌声は大空高く
雄々しく響く
昂は歌う あなたと歌う
愛に満ちた 平和の歌を
心一つに ともに歌おう

その歌声は大空高く
雄々しく響く
昂は歌う みんなと歌う
愛に満ちた 平和の歌を
心一つに ともに歌おう
アー歌おう

地雷ではなく 花をください

門倉 さとし 詞

NPO法人の地雷廃絶キャンペーンで1996年に作られた絵本から生まれた詩に、昂の指揮者である本並美徳が作曲した。軽快なリズムと爽やかなメロディーが、みんなの力で平和な地球をと呼びかけている

この空に 風が光る
どこまでも ひろがってゆく
空に 国境がないように
地平線のこちらにも むこうにも

花の種と一本の苗木
地雷ではなく 花をください
埋められた 地雷のかわりに
花の種と 一本の苗木
ひとつひとつ とりのぞき
花の種と 一本の苗木

この海に 風が光る
どこまでも ひろがってゆく
海に 国境がないように
水平線の向こうにも こちらにも

平和の歌と きれいな地球
地雷ではなく 花をください
地雷ではなく 花をください

組曲「満蒙の地＜方正＞の歌」より

ほうまさ 方正はいくさを物語る

千秋 昌弘 詞

昂の団長の千秋昌弘が中国への旅で、ハルピン郊外方正にある日本人公墓（中国政府が建てた唯一の日本人の墓）に行った時、そこで初めて満蒙開拓団の悲惨な事実を知り、そのときの言い知れぬ衝撃と平和への熱い思いを、数編の詩にまとめた。千秋本人と榎原昭裕、森二三 両氏の作曲により、初めての創作曲として完成した組曲「満蒙の地＜方正＞の歌」の中の作品である。

見渡すばかりの トウモロコシ
地平線に広がって
過去のいくさを物語る
ここ方正から ハルピンを目指す
開拓団の逃避行
子ども年寄り 妊婦も混じり
ハルピンを目指す

飢えと寒さに 乳飲み子は死んだ
道端に穴を掘り
やむなくわが子を葬った
生きておくれと
現地に子どもを預け逃避行は続く
葬る穴は日に日に深くなり
ハルピン 着いた

方正の青い空

千秋昌弘 詞

満蒙の小さな丘
赤いカンナとひまわりが
日本人公墓 飾ってる

敗戦直前 軍隊は逃げ
開拓団は逃避行
飢えと寒さに 命を落とす
国は違えど同じ人間
敵味方なく 大地に平和を
あのいくさ もう繰り返すまい

方正の青い空 方正の青い空
地平線に連なって
平和の風よ 吹き渡れ
平和の風よ 吹き渡れ

満蒙開拓団と方正日本人公墓について

満州事変以後、国策として中国東北部に送られたのが満蒙開拓団である。45年8月の敗戦直前、関東軍は開拓団を見棄てていち早く逃げた。敗戦も知らされない中、成年男子が不在で、老人と女性・子供だけの着の身着のままの逃避行は、ソ連軍の銃撃や兵士の強姦、殺戮、略奪、中国人暴徒の襲撃、さらには伝染病の蔓延、餓死、凍死、集団自殺など、悲惨な地獄絵図となった。敗戦時の旧満州での日本人死者20万人余りの4割以上が開拓団員であった。

戦後、野ざらしのままの白骨の山を埋葬したいという残留日本人女性の願いを受け、「国は違っても同じ軍国主義の犠牲者である」として、中国政府が建てた唯一の日本人の墓が方正日本人公墓であり、今まで中国の人たちに大切に守られ、悲惨な歴史の真実を伝えている。

ゆらゆら春

桜井昌司 詞

1967年の布川事件の犯人として逮捕された桜井昌司さん。一旦は無期懲役の判決が下りたが、一貫して無実を訴え続け、2011年に冤罪として無罪判決が確定した。孤立無援の戦いにも希望を失わず、長い獄中生活の中で桜井さんが自ら作詞作曲した作品である。

雨が降って 風が吹いて
季節は流れゆく
雲の上の 空の上の
どこか どこか どこか
春待つ人も 野山も
明日を信じてる
そうさ みんなそうさ
みんな 耐えているさ
ゆらゆら 春は来るね
ゆらゆら 春は来るね

喜びと悲しみに
季節は流れゆく
空の下の 人の上の
どこか どこか どこか
春待つ人の 心に
花咲くときはいつ
きっといつか そうさ
いつか 夢の朝が
ゆらゆら 春は来るね
ゆらゆら 春は来るね

別れたり 出会ったり
季節は流れゆく
人の中の 町の中の
どこか どこか どこか
春待つ人は 笑って
笑っているものさ
君もほうら そうさ
友がいるじゃないか
ゆらゆら 春は来るね
ゆらゆら 春は来るね

死んだ男の残したものは

谷川俊太郎 詞

ベトナム戦争のさなかの1965年、「ベトナムの平和を願う市民の集会」のために、谷川俊太郎が作詞、武満徹が作曲した。

日本の敗戦からちょうど20年後、戦争の傷痕や記憶がまだ遠いものでなかった時代である。何度も繰り返される「何も残さなかった」という言葉に、多くの人が戦争で味わった悲しみや苦しみが込められているのであるか。

今までにポピュラーからクラシックまで多くの歌手に歌い継がれ、また林光や武満徹の合唱編曲によって、多くの合唱団のレパートリーとしても重要な曲となっている。

死んだ男の 残したもの
一人の妻と 一人の子ども
ほかには 何も 残さなかった
墓石ひとつ 残さなかった

死んだ女の 残したもの
しおれた花と 一人の子ども
ほかには何も 残さなかった
着物一枚 残さなかった

死んだ子どもの 残したもの
ねじれた足と かわいた涙
ほかには何も 残さなかった
思い出一つ 残さなかった

死んだ兵士の 残したもの
壊れた銃と ゆがんだ地球
ほかには何も 残せなかった
平和ひとつ 残せなかった

死んだ彼らの 残したもの
生きてる私 生きてるあなた
ほかには誰も 残っていない
ほかには誰も 残っていない

死んだ歴史の 残したもの
輝く今日と また来る明日
ほかには何も 残っていない
ほかには何も 残っていない

いのちの歌

Miyabi 詞

竹内まりやの歌で知られるこの曲は、2008年のNHK連続テレビ小説「だんだん」の劇中歌で、竹内がMiyabiのペンネームで詞を提供、村松崇継が作曲した。人と人との出会いや縁、共に生きていくことの尊さを歌ったこの歌は、結婚式や卒業式などで広く歌われている。

生きて行くことの意味
問い合わせる そのたびに
胸をよぎる 愛しい
人々の温かさ

この星の片隅で
巡り会えた奇跡は
どんな宝石よりも
大切な宝物

泣きたい日もある
絶望に嘆く日も
そんな時 そばにいて
寄り添う あなたの影
二人で歌えば
懐かしく よみがえる
故郷の夕焼けの
優しいあのぬくもり

本当に大事な物は
隠れて見えない
ささやかすぎる 日々の中に
かけがえのない 喜びがある

いつかは誰でも
この星にさよならを
するときが来るけれど
いのちは繼がれて行く
生まれてきたこと
育ててもらえたこと
出会ったこと 笑ったこと
その全てに ありがとう
このいのちに ありがとう

鳴

谷村新司 詞

日を閉じて 何も見えず
哀しくて 日を開ければ
荒野に向かう道より

ほかに見えるものはない

ああ 駆け散る 運命の星たちよ
せめて 密やかに この身を照りせよ
私は行く 蒼白も頬の赤みで
私は行く わいば 鳴よ

呼吸をすれば胸の中
風は 呟き続ける

されどわが胸は熱く
夢を追い続けるなり
ああさんざめく 名も無き星たちよ
せめて鮮やかに その身を終われよ
私も行く 心の命ある赤みに
私も行く わいば 鳴よ

ああ いつの日か誰かが この道を
ああ いつの日か誰かが この道を
私は行く 蒼白も頬の赤みで
私は行く わいば 鳴よ

キエフの鳥の歌

ウクライナ民謡 木内宏司訳

1

果てなき空のかなた いとしい鳥は飛ぶ
丘に一人たたずみ 過ぎにし日を思う
心にしみる鳥の声 白鳥よ鶴よ
やさしき人は今いすこ 教えておくれ
ああ： ああ：

2

夜霧にしずむ森よ ほの暗き谷間よ
うたごえ川面をゆく わが思いを乗せて
鶴のうたごえによせて とどけよ愛の歌
やさしき人は今いすこ 教えておくれ
やさしき人は今いすこ 教えておくれ
あー

男声合唱団「昴」 22年間の確かな歩み

世の中の出来事

2000	男声合唱団昴結成（20名）	介護保険制度スタート
2002	日本のうたごえ祭典福岡 合唱発表会1位	日韓ワールドカップ 拉致被害者帰国
2003	日本のうたごえ祭典長野 合唱発表会3位	SARS 六本木ヒルズ
2004	ファーストコンサート（クレオ大阪中央） 日本のうたごえ祭典沖縄 合唱発表会1位	冬のソナタ アテネ五輪
2005	日本のうたごえ祭典広島 合唱発表会1位次席	クールビズ JR福知山線脱線
2006	セカンドコンサート（クレオ大阪中央） 日本のうたごえ祭典福井 合唱発表会2位次席	個人情報保護法 アスベスト
2007	3rd春を呼ぶコンサート（阿倍野区民センター） 日本のうたごえ祭典奈良 合唱発表会銀賞	国民投票法・食品偽装
2008	4thコンサート（ザ・シンフォニーホール）	ブログ ハンカチ王子
2009	5th春を呼ぶコンサート（阿倍野区民センター） 中国（南京）平和と友好のコンサート	アラフォー・ツイッター・フェイスブック
2010	6th10周年コンサート（NHK大阪ホール） 日本のうたごえ祭典長崎 合唱発表会銀賞	日経平均最安値
2011	7th5月の風コンサート（阿倍野区民センター） 第1回被災地支援コンサート（陸前高田市,大船渡市）	派遣切り リーマンブラザーズ
2012	8th昴ってどんなとこコンサート（阿倍野区民センター） 第2回被災地支援コンサート（陸前高田市,大船渡市）	いい質問ですねえ ～なう AKB48
2013	日本のうたごえ祭典おおさか（大阪城ホール） 男性のうたごえ「おらあここがいい」の中心で活動	「アバター」 草食男子
2014	9thよき春よたちあがれコンサート（クレオ大阪中央） 日本のうたごえ祭典宮城 合唱発表会銀賞	はやぶさ帰還 ゲゲゲの
2015	日本のうたごえ祭典愛知 合唱発表会銅賞	東日本大震災 原発事故
2016	10thつきとめよう明日への歌コンサート（いすみホール） 日本のうたごえ祭典愛媛 合唱発表会銅賞	なでしこジャパン
2017	11thこのみちをゆこうよコンサート（豊中文芸センター）	iPS細胞 LCC スカイツリー
2019	12th千秋昌弘＆昴ジョイントコンサート（いすみホール）	終活 爆弾低気圧
2020	日本のうたごえ祭典京都 合唱発表会 銅賞	ロシア隕石 じぇじぇじぇ
2021	日本のうたごえ祭典広島 合唱発表会	今でしょ お・も・て・な・し
2022	13thコンサート（豊中文芸センター）	カープ女子 ありのままで
		ごきげんよう
		ゴースト作曲家 爆買い
		一億総活躍社会 ドローン
		聖地巡礼 トランプ現象
		藤井聰太29連勝 フェイクニュース
		インスタ映え 忖度 Jアラート
		大坂なおみ、池江璃花子
		パンデミック 大谷翔平 オミクロン
		ウクライナ